

2015年5月11日発行

縦横夢人

2015年 春8号



2015年4月18日 西宮市総合福祉センター別館 2F 多目的ホールにて 支部総会集合写真

兵庫頸髄損傷者連絡会

ホームページ : <http://hkeison.net/>

E-mail : hkeison@yahoo.co.jp

春光

島本 卓

寒い季節が終わり、桜の花が春のおとずれを知らせてくれました。

春風と共に、新しい1年の始まりを楽しみ「縦横夢人 No.008」を通して、一人ひとりの経験や体験から「自分らしさ」に気づいてもらいたいと思っている。

私が今年の目標にしているのが「チャレンジ」です。沢山の仲間を支えていただき、いろんな経験をさせていただけることができ、今の自分があるんだと思います。「こんなこといいな、できたらいいな」と思っていることにチャレンジします。

機関誌の編集に加わり、早くも3回目の発行になります。あらためて「縦横夢人」が兵庫県内にいる頸損の方との繋がりだけではなく、他県におられる頸損の方との繋がるネットワークの1つだと思っています。もっと沢山の方に読んでいただけるように、若手メンバーが全力で頑張っていますので、これからも「縦横夢人」をよろしく願いいたします。

も く じ

特集「第4回合同シンポジウム」	(米田、島本、山本、土田、村田、宮野)	2
会員報告「ぶらぶら物件めぐり」	(大阪頸髄損傷者連絡会 赤尾広明)	16
会員報告「住宅改修工事について」	(中地匡俊)	20
会員報告「大阪春のレクリエーション」	(土田浩敬)	24
会員報告「アニコン」	(井上歩)	26
活動報告「第5回兵庫支部総会」	(宮野秀樹)	27
行事のお知らせ		32
入会案内		34



特集

日本リハビリテーション

工学協会・全国頸髄損傷者連絡会

第4回合同シンポジウム

一緒にやろうや！「住」

去る、2015年3月21日（土）に日本リハビリテーション工学協会・全国頸髄損傷者連絡会の第4回合同シンポジウム、一緒にやろうや！「住」が川村義肢株式会社本社大ホールにて開催されました。参加者は総勢約100名とたくさんの方が集まり大盛況でした。みなさん、パネリストの話にとっても真剣に聞いておられたのが印象的でした。また今回のテーマに興味、関心を持たれている人が多いことに気づきました。今後も同じようなシンポジウムがもっと開催されると情報発信に繋がると思いました。私たちが住むことに関して抱えている問題点も認知されていくのではないのでしょうか。

ここからは、今回のシンポジウムにパネリストとして参加された方や実行委員として参加された方など、実際に住宅改修を行った人から感想を頂いていますのでご覧ください。（山本 智章）



実行委員メンバー集合写真

第4回合同シンポジウム～情報提供～

米田 進一

私が頸髄を損傷し病院に搬送されたのは2005年の春、この5月で受傷10年になります。今回、頸損連とリハ工が合同シンポジウムを開催し、「住」について考えてみようということで、情報提供の一例として、引っ越しして良い点や残念に思う私の体験談をお伝え出来ればと思います。

■マンションでの生活において振り返ると

◎良かった点といえば

- ①実家ではなく自分の家に帰れた安心感。
(実家は震災を体験し補強要)
- ②偶然隣の医者が主治医になってくれたこと。
(緊急時でもすぐに対応してくれるので安心)
- ③目の前にスーパーがあったこと。
(利便性の面から)

●生活面での不満だった点として

- 1. リビングにベッドを置いた事により、窓の外が見えなく、気分転換にならず、ストレスが溜まっていました。
- 2. リビングでの生活の為、プライベートがなく、常時、人の出入りがあることや、物音や水回りの音等に不満を感じていました。
- 3. 入浴も、浴室に入ることが出来ないことから、訪問入浴を利用し、リビングに簡易浴槽を持ち込み、入浴をしていました。決められた時間内で入浴しなければいけないこと。

生活の全てがリビングで完結してしまい、プライベート空間もなく、受傷後、引っ越す迄の約7年間はストレスの連続だったと言えます。

*外出する時の問題点は

ベッド上で着替え、車椅子への移乗をする時、介助式の車椅子の時にはさほど問題もなく、スムーズに玄関まで行くことが出来たのですが、電動車椅子の導入により、外出時に自分の選択肢が増え、活動範囲も広がり、自己実現への一歩、QOL(生活の質)も高まっていくと思って喜んでいたのですが、様々な問題も出てきていました。

- ① 電動車椅子の収納場所。
(母の寝室が和室で畳の劣化を防ぐ為マットを敷いていた)

- ② 室内がバリアフリーではない為、車椅子の出し入れに工夫が必要。
- ③ 自室(リビング)から玄関の間にある扉金具の幅(ドアノブ)がある為、介助式車椅子の時は簡単に出られるのですが、電動車椅子の場合は、介助式車椅子より幅が広いので、毎回自室の扉を取り外さないと自室から出る事が出来ない。



- ①廊下の幅が電動車椅子ではぎりぎり、玄関横の両サイドにある部屋の扉の取っ手、トイレのドアノブ、玄関に出るまでの廊下に3カ所あり、ゆっくり進まなければ、手が挟まりそうになり、とても神経を使う。

②玄関を出る時も、外の廊下幅が狭く回転に注意しないと、電動車椅子の後ろに吊り下げた呼吸器をぶつけてしまう可能性があり、場所により直角に近い姿勢を保っていないとい外に出られない。

③二階に住んでいた為、必ずエレベーターに乗るので、普通に座った状態ではエレベーターに入らないので、介助式車椅子と電動車椅子の両方とも、フットサポートを取り外し、更に上体を90度近くまで起こし、その体勢だと足を引きずってしまうので、電動車椅子は昇降機能を使用してエレベーターの出入りをしなければ、外出をすることが出来ませんでした。



私の身体は直角に近い状態に迄上体を起こすと、時折、起立性低血圧を起こすことが多く、外出時は2回我慢をしなくてはなりませんでした。



身体を起こした状態で入ると膝が壁に当たる↑



フットサポートを外した状態↑（足が床につく）

④電動車椅子の重みによる廊下の歪みが酷くなってきた事です。

マンションの玄関にも階段が3～5段ほどありスロープもなく、父が私の為に、ホームセンターで材料を自費購入し、場所に合わせて2つ位スロープを自作してくれました。

当時は車椅子を利用する人が居ない事から、私1人の為にスロープの設置する事に対して、マンションの住人の反対があり、5年余の間は我慢しなければいけない事に家族も苦労しましたが、その後、ベビーカーも増え、住人の高齢化等から、管理組合によって話し合った結果、やっとの思いでスロープが設置されるも、引っ越しをする1年位前迄マンションの玄関にはスロープがなかったですし、「もっと早くから対応してくれよ」という思いが常にありました。

そして4年前に起きた東日本大震災の影響から、2012年に明石市が発行したハザードマップエリアを見てみると、私が住んでいた所は、震度6強クラスの地震や、今後30年以内に起こりうると思われる南海トラフ規模クラスの様な大地震で、もし津波が来た場合、海拔が低い事、近くに明石川が流れている事もあり、10メートル級の津波が来る事を予想した時、二階に住んでいた家は、完全に水没する結果になるという事がわかりました。

以前住んでいたマンションは、阪神淡路大震災後に建てられた物であり、バリアフリーの建物ではない為、一昨年1月下旬の引っ越し迄に、在宅生活になって約7年近くの年月を過ごしてきました。

私自身の思いとしては、このまま住み慣れたマンションで暮らしていく事を望んでいたのですが、将来、自然災害等があった時、停電の問題（つまり私の場合は人工呼吸器のバッテリー時間や、マンションのエレベーターが停まる等）や、命を守る為に避難がすぐに出来ないという事を考えた時、広告チラシの情報から、現在の土地が売り出されていた事で、引っ越しをするというのも1つの方法ではないかと家族から話がありました。

建築の予定地は、海拔も高く、海岸から3~4km位離れている為、津波が来る確率が低く、安心できる位置である事、避難が容易である事、また消防本部が側にある等から、渋々でありましたが、引っ越しする決意をしました。

最低条件として住宅会社に幾つか要望を出して建設準備が進んだのです。

○引っ越しして良かった点

- ・エレベーターに乗らなくて済んだこと。
(マンション時よりも大幅に時間の短縮)
- ・車椅子の収納場所。
(玄関に入ったすぐの所に置ける様にした)
- ・天井固定式リフターの設置。
- ・窓から季節を感じる様になった。
- ・自分の部屋が出来たことでプライベート空間が出来たこと。



- ・廊下や部屋の床の補強。
(電動車椅子の重量に耐えられる様にした)



- ・廊下幅が広くなり、段差が無くなった。
- ・スロープの設置。



道路まで屋根を取り付け雨に濡れるのが少ない



- ・駐車場を自宅敷地内に確保。
(真ん中2台分は、医療関係者用に設置。)

設計上での車椅子基準採寸で判断されると、実際、完成後に入室してみれば、至る所で思わぬ事が見えてきます。



▲もっと工夫してほしいかったこと

・スロープと玄関の外の壁の位置関係で、外出時と帰宅時等、常に緊張を強いられる。

玄関先の踊り場の長さが思ったより狭く、自走でミスをすれば階段から転落、曲がり時に切り返しをする度に、電動車椅子の後ろに吊り下げている呼吸器を壁にぶつけないか？等といった細かな神経を今でも使います。

・この体験から玄関が中央にあるため、スロープの設置場所も正面にした方が良かったかも知れない。

・自宅で入浴する事が困難に感じた。



(ストレッチャーに乗った私と母親、介助者2名が浴室に入ると狭すぎた)

・居室の扉がバリアフリー仕様の取手が付いていたため、開口部を狭める。

・家族全員と一緒に食事が出来ない。

マンションの時はリビングにテーブルがあり、

食事をする時も家族との会話もあり、それが当たり前だと思っていたので、一戸建てになっても、家族皆が会話しながら食事が出来ると普通に当然に思っていました。しかし、いざ介助式の車椅子に座りリビングに入ろうと試みましたが、入り口ですぐに曲がらなければ、テーブルがある所まで行けない、フットサポートを外さないと壁にあたるのは目に見えていました。「これでは以前と変わらないだろ？」と思いました。

建築期間は約半年掛かったにもかかわらず、今回の設計担当の方が身障者の生活環境についてあまり詳しくない事は、今となっては残念に思います。

私の反省にもなりますが、殆ど家族に任せていた事も、設計に携わる担当者との打ち合わせ等の回数やコミュニケーションの不足を感じています。もっと入念に細かい要望を伝えていれば、更に改善できたのではないかと思います。

○今となって後悔していること

・詳しい専門機関に相談すればよかった

・こんな時に相談できる相談機関がほしい

・設計者ととともに、同じ障害の人の家を見に行けばよかった

・同じ障害の人に家を立てる時のコツを聞いておけばよかった

・設計者と模擬空間等で動作シミュレーションをすればよかった

引っ越しは一生涯に何度も出来るわけでもない為、あえて注文住宅となれば、こちらの要望に応じて貰えるという期待感があるので、失礼な言葉を言わせて貰いますと、建築関係者の方々には、「身障者の方達が笑顔になれる家造りをするぞ」と言った期待に応える建築のプロとして、知識を持って携わって頂きたいと心から思っています。

引っ越しから、2年2ヶ月程しか経っていませんが、今後は緊急時に備え、発電機の購入や生活面で改善対策を練っていきたく思います。

住環境から、地域生活への第一歩！

兵庫頸髄損傷者連絡会 島本 卓

合同シンポジウム一緒にやろうや！「住」が3月21日（土）に、川村義肢株式会社本社にて行われました。今回のテーマは「住環境」です。

当日、沢山の参加者で会場はギッシリ席が埋まっていました！

「はじめに」

合同シンポジウムに参加するのも初めての私は、まさかの実行委員の一人。パネルディスカッションのパネラーとしても参加させていただき、とても貴重な経験ができたと思います。この経験を活かしていくことが、自分のこれからの課題であることを感じながら、重度障害者の地域生活への思いを持ち続けられる場を作り上げていかなければならないのだと思います。



「思い、考え、」

合同シンポジウムに参加が決まって、改めて「バリアフリー」、「ユニバーサルデザイン」の違いについて、考える機会をもらったと思いました。恥ずかしながら、私は言葉の違いだけだと思っていました。みなさんも、二つの言葉を聞いたことがあると思いますが、違いについて考えたりしたことはありますか。

「誰もが使いやすい」をテーマにユニバーサルデザインは「人への思いやり」を持っていて、「障害者、高齢者が利用しやすい」がテーマのバリアフリーも「人への思いやり」をもっているのではないのでしょうか。二つの言葉を使う場面の違いや、考え方、表現の仕方の違いがあるようにも感じま

した。「バリアフリー」、「ユニバーサルデザイン」の二つが目指して世の中に情報発信している内容による使いやすさの部分では、もしかすると共通しているのかもしれませんがね。

私が頸髄を損傷して、9年目になった現在にいたるまで深く考えたことはありませんでした。「車いすを使う」ということで、段差を解消しなければ生活がしにくいだらうと思い描いていただけかもしれません。頸髄損傷の方の在宅生活を見せてもらいにも行きました。工夫をされながら、福祉器具を使っている様子や、話も聞くことも出来ました。バリアフリーへの工事をすることだけが選択肢ではなく、持ち家、賃貸によってもできる、できないがあること。また、部分的な工夫で対応できる場合も知ることが出来ました。

「自宅紹介」

退院時から現在も実家で在宅生活をしています。住み慣れた場所に帰ることは、とても居心地もよくい環境だと思いました。車いす生活になって初めて、住みやすさや使いにくさも同時に感じることになりました。私の実家は「200年」という古い木造、藁葺き屋根の家に住んでいました。



幼い時の印象は、昔話に出てきそうな不思議な家といったイメージでした。

受傷前は風通しもよく、エアコンも設置しなくてもいいくらい過ごしやすい生活でした。冬は掘りごたつで団らんしていたことを思い出します。

お風呂は毎日薪を割って、煙突から煙がモクモク上がりながら入浴をしていました。斧ででっかい焚き物を割り、釜に入る大きさに鉋でさらに割っていました。

おかげで当時の私の後背筋はバキバキに割れていたのです（笑）ガスなどで沸かすよりも、かなりの時間が掛かりますが木の匂いがほんのりします。とって「あったかいんだから」今では、懐かしき思い出となってしまいましたけどね。

「いざ、工事！再工事！」

自分が車いすで歩むことになり、体温調整ができなくなったことで、いろいろと不十さを感じるようになりました。玄関の段差が酷く、車いすで出入りが出来ないことから在宅生活に向けて、バリアフリー工事を行うことにしました。病院に入院している時に、外出許可を貰って実家を見るために一度帰りました。改修工事が必要な部分を主治医の先生や、OTさん、PTさんにも一緒に見てもらいました。どこをどうすれば、使いやすいだろうと考えながら見ていましたが、イメージがなかなかわきません。ベッドを置く部屋を決め、出入りするために昇降機が必要であること、お風呂が巻き風呂では入浴ができないぐらいしかわかりませんでした。

工務店と仲介役の方とは何度も意見交換、要望を伝えました。使いやすさを考えて相談をして工事を進めていたつもりでしたが、退院してきたの第一印象は使いにくいとしか感じられませんでした。



寒さ対策のために変えた、ドア！

さあ在宅生活が始まるんだと思えたら良かったんですが、何しろ体温調整ができないことへの

改修工事はエアコンを取り付けただけで、保温性は変わっていませんでした。実家に戻ったのは、9月の最初でした。まだ暑さは残っていたのでクーリングへの不安はありましたが、なんとかのりきれました。

やっぱり寒くなってからの不安が的中し、毎日凍える程の寒さに耐えていました。最初は大きなカーテンを取り付け、寒さを遮っていましたが耐えられなくなり、ドアへと取り替えました。

私は、電動車いすと介助用車いすの両方を使います。私は縁側から昇降機を使ってベランダに上がり、部屋に出入りします。

昇降機の取り付け位置がベランダに上がるための階段と逆に付いているので、晴れの日はいいのですが、雨天時の外出時には車いすも濡れてしまいます。改善をするために波板を取り付けて雨天時でも濡れないようにしました。



階段と昇降機の取り付けが逆

部屋に入るのに、サッシとベランダとの間に5センチ程の溝があり、介助用車いすの前輪では溝にはまってしまいます。この部分の改善はとて難しくサッシを全部取り外すだけではなく正面玄関の土壁も壊し、新たにサッシを取り付ける大掛かりな工事が必要になるとの内容だったので、やり直さずに現在もそのまま使っています。改善が出来るどころと、出来ないところは実際に使わないと分からないものですが、車いすを使って生活をする情報のなかで、取り付けや溝などについても予測できたのではないかと感じています。私がイメージしていたのと、180°とは言いませんが90°ぐらいは違う内容でした。完成して使ってみてわかるものが大半だと思います。

皆さんも一度は聞いたことがあると思いますが、「家は3回建てないと理想の家にならない」と

言われるぐらい、いきなりの完璧はないでしょう。

「2回目の工事へ」

私は、早くも2回目の改修工事を行いました。1回目を振り返ると、バリアフリーではあるが電動車いす、福祉機器を使う立場として安全面に不安が残りました。例えば工務店との意見交換、情報交換が取れていたなら、こんなことになっていなかったのでしょうか。不安は日に日に増えていき、ここまで工事をしたのだからと思う気持ちもありました。

工事への説明対応だけでなく、何よりも図や資料で説明してくださる棟梁さんが相談に乗ってくれたことが再工事を行うことになった決め手でした。棟梁さんとの出会いが、とても大きかったです。

思い切って藁葺き屋根を瓦に葺き替えをしてもらいました。私がベッドを置いている部屋の天井も、最初の工事の時に焼き板に変えていたのです。

天井の異常に気づいたのも、お昼にラーメンを食べようとしていた時でした。コショウをかけようとした、その時！ブラックペッパーが天井から適量、私の足元に落ちてきたではありませんか。



ブラックペッパーが落ちてきた天井

「まぼろし〜」では、ありません。「ありゃ？」天井の勾配部分を見てみると、やっぱり何か落ちてきた。棟梁さんに診てもらおうと、勾配部分の焼き板の組み方が逆だったことが判明！

コーキングパテを使って、焼き板の隙間を埋めてもらうことにしました。棟梁さんには、最初の工事の手直しばかりをお願いしていました。電気、水道、駐車場などあらゆる場所も見てもらいました。駐車場の勾配も、車いすに乗っている時の

首への衝撃による負担なども考えてくださり、駐車場のスロープ工事も行いました。電気屋さんにも携わっていただき、ガスを使っていましたが、安全面を考慮してオール電化へ変えることにしました。

福祉機器など私の身の回りには沢山の電気を使う物が多いことから電気回路を増やしてもらうなど、気づかなかった部分を教えてくれました。

今思えば、最初から再工事に携わっていただいた棟梁さん、棟梁さんのお知り合いの職人さん達が最初から工事に携わっていただけていたらと後悔しています。



バルコニーの工夫

「父親は」

私の父親は大工をしているのですが、別の工務店に工事のお願いをすることにしました。2回目の工事をしてくださった棟梁さんとは知り合いです。なぜ別の工務店に依頼をしたのか。皆さんに「してもらえるからいいね」とよく言われるんですけど（笑）家族であることから、「また明日にするわ」、「ここはこうしたほうがいいから、やり直そうか」など、時間が掛かってしまうことが予想できたからなんです。丁寧で完璧な職人であることは、私が幼い時から見ていましたが、仕事となると頼みにくいものなんです。私も、「こうしてほしい」と何度も言いたくなると思うので（笑）父親が大工だなんて、理想的だと思うんですけどね。欲を言えば、時間が掛かったとしても、部分的に改修工事を行っていきながら生活をしていき、使いにくいところを直していけたら、一番使いやすく満足感のある工事ができるんだろうと思います。

「住環境のこれからと私」

沢山の方が、情報を求めているのが現状になります。会場でも、いろんな経験や思いを聞くことができたと思います。自分たちが持っている情報を伝えることが、大切になってきます。意見や疑問を発信する場として、合同シンポジウムでの住環境第二弾の開催が出来たらと個人的に思います。集まれる場がなければ、意見がひとつの点で終わってしまう。とても残念な結果になってしまう。

点と点が線で結ばれていけるようになれば、人との繋がりへと進んで行くのではないのでしょうか。情報はいくらあっても、無駄にはならない内容です。一人ひとりが情報発信者でありながら、取り組んでいくことができれば「住環境のネットワーク」ができあがって来るのではないのでしょうか。時間を掛けてでも作り上げていく必要があるのです。自分たちの経験を発揮できる範囲だと思います。

今後、皆さんも必要としているのは、住環境と共に重度障害者は地域で生活ができるんだと安心して言える世の中にしていくこと。その第一歩が、「住環境」の整備でもあると感じています。誰もが住環境とは切り離せないのかもしれない。

私はシンポジウムを通じて、「福祉住環境コーディネーター」の資格を取るために動き出そうと決める！とことん深く追い求めてみようではないか。きっと動き出せば見える世界が変わる。参加させていただいて、「体験型施設」の話をされているのを聞いて、私はとても興味深かったです。こんな施設あればと思いました。自分の体で必要になるであろう福祉機器を試しながら、合わなければ取り替えて生活へのイメージを掴んでいくことができますよね。

このことから「自分には関係ない」と思ってほしくない。もちろん自分の環境を整えていくことが大切だ！しかし、自分が進めていく中で、「情報を得るためにしたこと」、「情報が得られる場」など振り返ってみたら沢山の経験を皆さんもされているはずです。一つの経験を一人ひとりが出しあうことをすれば、情報はとても膨らみ、自分にあった内容が見つかるのではないのでしょうか。

私自身が、ネットワークのどの部分に関わるこ

とができるのかを考えたことも確かにありました。難しく考えてしまっていたんだと、今思えばかりです。困った時には、決して「一人じゃなかった」ですよね。先輩方との出会いから、沢山の仲間と出会ったように繋がりが広まっていきました。

繋がりこそがネットワークになっていくのだと、私は感じていますがね。

今の自分が行っている活動が、必ず形になるんだと思ってやっていたと思います。いろんな場所に行き、いろんな方と情報交換をして行きたいと思います。私が目標にしている「一人暮らし」に向けて、2015年はチャレンジをテーマにやっていくぞ！

「ユニバーサルデザイン」

住環境と同じぐらい大切になるのが、福祉機器や用具なのかもしれない。イメージは「デックイ」、「重い」なのが、私が感じるのかな。かなりの場所もとりますよね。



最近では電動車いすもコンパクトになってきたように思うのだが、家の中を自由には言えないのかもしれない。コンパクトで、安全、安心できるものができ、機器や用具の規格サイズができてくれば面白いかもしれませんね。どの大きさの部屋でも対応できるようになれば、どれだけ便利になるだろう。現在、玄関から搬入できなかったり、場所が限られてしまうことがとても残念だ。

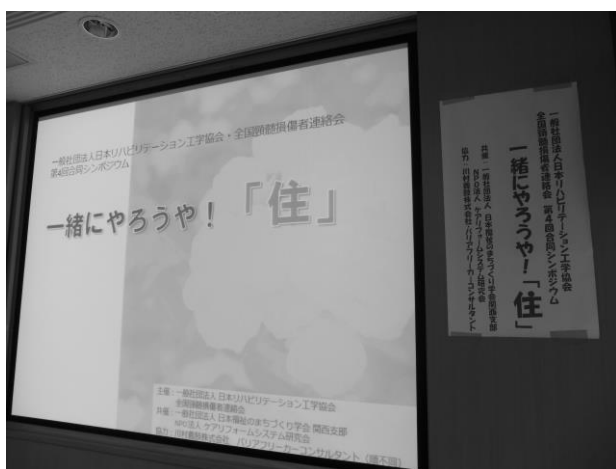
誰もが安心できる「ユニバーサルデザイン」が将来求められてくるんだと思います。

重度障害者の地域生活ができる環境が特別ではなく、あたり前な世の中へと、私達を変えていかななくてはならない！

第4回合同シンポジウム～司会～

山本 智章

去る、3月21日（土）に大阪府大東市にある川村義肢株式会社にて、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会と全国頸髄損傷者連絡会の第4回合同シンポジウム“一緒にやろうや！「住」”が開催されました。今回は、関西での開催ということで、大阪と兵庫頸損連も実行委員に加わり準備を行ってきました。



会場内スクリーン

まず私は、会場となる川村義肢株式会社はどこにあるのか。また、どのような交通機関を利用して行けばいいのか。全く分からなかったので川村義肢のホームページに掲載されている住所や最寄り駅を調べました。そこで目にした“JR住道駅”まさか、“じゅうどう”と読むのだろうか。そんなはずがないと思い漢字を調べました。やはり、違う読み方で“すみのどう”でした。

当日の行き方は、JR明石駅からJR尼崎駅まで行き尼崎駅で乗り換えてJR住道駅まで行きます。駅からはシャトルバスで会場まで行く予定にしていました。

いざ当日、JR住道駅までは予定通りに問題なく着いてシャトルバスが来るまで約30分の待ち時間がありました。その間に昼食にと持参していたコンビニのおにぎりを駅前で食べていました。

この日は、天候に恵まれ日向は暖かく外で食べるおにぎりが美味しいと春を感じていました。ゆっくりしていると、目の前を川村義肢と書いて

あるバスが駅のロータリーに入っていくのが見えました。もしかして、いま見えているあのバスに乗る予定だったような。時計を確認すると嫌な予感があたりバスが来る時刻になっていました。さっきまでの暖かかった空気がいっきに寒くなり私の顔も青ざめていたのではないのでしょうか。ただ呆然と駅から出ていくバスを見ている私に、大阪頸損連のSさんからバスに乗らなくてもいいのか？と声をかけて頂き、急いでバスを追いかけました。この時が一番あせりました。お願いだから停まってくれと思いながら。

ようやく、Sさんと学生ボランティアさんが声をかけてくれたおかげでバスが停まり、私は無事バスに乗ることができました。私は、Sさん、学生ボランティアさん、バスの運転手さんに申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

移動中の車内で“やれやれ”と大きく息をして会場に着く前から何をやっているんだろうと先が思いやられました。なぜなら、今日の合同シンポジウムの司会を私がすることになっていました。私の中で大役だったからです。

会場に着くと実行委員のメンバーが発表の打ち合わせをしていたり、通路をバタバタと慌ただしく動いていたりと最終の準備が行われていました。私は今回の合同シンポジウムで発表される方々にご挨拶をして名前の読み間違えがないように確認をとり本番に備えていました。



最終の打ち合わせ

だんだん緊張が強くなってきましたが、言葉に詰まってもいいから言い間違えのないようにや

りきろうと心を落ち着かせました。

開始時間が近くなるにつれ参加者の数が増え、人では会場がいっぱいになり、なかには会場の外から見る人までいたぐらいでした。こんなに沢山の人が集まるなんて想像以上でびっくりしました。



会場の様子

そろそろ始めるのかな。開始時間も少し過ぎて、いるし会場には沢山の参加者も集まっているし、思い切って司会を始めていきました。マイクから聞こえる自分の声に“変な声”と思いながらも第一声を出すことで少し緊張が緩み“このままなら大丈夫”と自信ができました。途中、何度も詰まりそうになりましたが、最後まで無事に司会の進行ができてホッとしました。



満面の笑み

今回の合同シンポジウムで気になったことは住宅改修についての話でした。実際に住宅改修をされた方の話を聞いていると改修が終わり住んでみると当事者の思い描いていた生活が送られていなかったそうです。とても残念な気持ちにな

りました。今より快適な生活を送るために住宅改修をしたのに、望んでいたことが叶わなかったのでは意味がなかったんじゃないかと思ってしまう。なんの為の改修だったのだろう。

もちろん一度目で満足できるものができるかどうかは難しいことだと思います。これは、どんな家を誰が建てても難しいことだったのかもしれない。だから、もっと当事者の日常生活を支援者側が実際に見たり、何度も話し合いをしたり、当事者を知ることが大切なのかなと思います。

例えば、車椅子の大きさや車椅子で曲がるのが可能な角度、また車椅子が通れるスペースや入れるスペースの確保などです。その他にも知っておくべきことは沢山あると思います。また、当事者も住宅改修をするうえで、どのような生活を送りたいのか明確なイメージを持つことが大事だと思いました。そのイメージを支援者側に何度も伝えることで相手にも分かりやすく伝わると思いました。お互いが納得するまで話し合えば大きなミスは減り満足ができる家になるように思います。また、住宅改修をされた頸髄損傷者の自宅を見学に行き自分の目で見ることも大切だと思いました。

私事ですが、今回の合同シンポジウムで実行委員として活動ができたことや、司会という大役をさせて頂いたこと“ごこちない”喋りの司会だったと思いますが、とても貴重な経験になりました。

また、このような大きなイベントを行うには、計画や準備がとても大切だと思いました。是非、これからの活動に活かしていきたいです。どうもありがとうございました。



実行委員メンバー集合写真

合同シンポジウム “一緒にやろうや！「住」”

兵庫頸髄損傷者連絡会 土田浩敬

こんにちは。

今回3月に行われた、日本リハビリテーション工学協会(以下、リハ工)・全国頸髄損傷者連絡会(以下、頸損連)との合同企画、障害者の住まいについての合同シンポジウム “一緒にやろうや！「住」” の感想を書かせていただきます。

第1回実行委員会

12月、リハ工の方達と頸損連のメンバーで実行委員が発足し、顔合せをかねた実行委員会が開かれました。

内容はどうか、頸損連メンバーはやはり当事者ということで、実際に住んでいる環境についての話になりました。興味深いネタもあるということで議論を重ねた結果、事例発表と専門家からの見解、その後パネルディスカッションという内容に。実行委員会もスムーズに進み、どんどん物事が決まっていきます。スケジュールとそれぞれの役割も決まり、次回の実行委員会の開催日時を決まりました。その後、懇親会をかねた食事へみんなで行きます。親睦を深めて次回の実行委員会に、良い雰囲気のまま望めそうな初回の実行委員会になりました。

第2回実行委員会

2回目の実行委員会は本番と同じ場所、川村義肢本社で行い、駅から会場までの順路確認やシャトルバスの運行状況、その他細かな所話を詰めていきます。実行委員会も今回が最後なので、しっかり確認してみんなで情報共有します。後にもかくにもこれで最後、みんな真剣です。このシンポジウムで障害者の住まいについての問題点や要望を、多くの方に知って頂こうという思いが、当日伝わる事を願い、実行委員会が終わりました。次回はよいよ本番になります。

本番当日

本番当日、晴れ。会場まで少し距離があるので、晴れて移動がしやすいです。参加される車椅子当

事者の方達も、晴れて会場までの道のりも安心して来られるでしょう。集合場所に実行委員が集まり確認、会場設営、それぞれ昼食後、担当場所に着きます。

私は受付担当です。ボランティアの学生さんとも軽く打ち合わせを終え談笑していると12:30頃、シンポジウムに参加される方々が、予想よりも早く来られたので、少し焦りましたが、個人的には何食わぬ顔をして冷静に対応出来たと... うん順調な滑り出しだ...と思っていると、次から次へと参加される方々が来られます。先ほどの冷静な対応をした私にその面影はありません。学生さんも大忙し、まるで工場の流れ作業のように黙々と対応。ですが笑顔を忘れません。

来られる方々に気持ちよく参加して頂きたいですから。受付表を確認すると大勢参加されていることが伺えます。今のところいい感じです。受付表と参加費を照らし合わせて途中集計していると、あれっ...金額が合わない。何度も確認するのですが合わない。うーん、どうしようか...誰かから多く徴収しているのか...と内心焦っていると、そういえばおつり分も一緒に計算していないかと気が付き、再度分けて計算するとぴったり。なんとも初歩的なことでみんなが焦っていたのですが、気が付いて一安心。

そんなこんなで受付の仕事が終わってみれば15:00過ぎ。すでにみんなの事例報告が終わり、発表が聴けず仕舞いに終わり少し残念でしたが、盛況だったようでありました。

個人的に受付で始まり受付で終わった印象の今回のシンポジウムでしたが、参加された多くの方々が、私達が感じる問題点を知り、また考える場になったのではないかと思います。

そして、このシンポジウムを機に、皆さんと考え、私たち当事者の抱えている問題を提起していくことが、私達の、そして誰もが住みやすい環境に少しずつ変わっていくのではないかと思います。

第4回合同シンポジウム

一緒にやろうや『住』に参加して

京都頸髄損傷者連絡会 村田 恵子

車いすを利用して生活をするようになって早や10年あまり、手動車いすから電動車いすに乗り替えて5年経ちます。生活環境は1m60cmの視界から1mくらいの視界での生活になりました。

バリアフリー、ユニバーサルデザインが社会に提唱され、様々な場所に活かされるようになってきたけれど、行く先々で「これって誰が利用するものとして造ったの？」と疑問に思う設備、設置の方法にしばしば会うことがあります。障害のある人となない人の見えないバリア…。

私自身、頸髄損傷者となるまでは想像できない暮らしの現実が驚くほどありました。

今回のシンポジウムに参加して一番に感じたことは、その当事者から情報を得た上で何よりも利用する側の視点と状況に基づいて情報提供と説明をし、合意して造らなければ、辛口な物言いにはなりますが一方的な自己満足でしかない長物が造られ、利用する側は困ってしまう事態に陥るといことです。

紹介された事例、パネリストの方々のお話には納得することしきりで、「当事者・建築・まちづくり・リハビリテーション」といった分野が専門性を活かし連携を取っていけば、きっと障害のある人だけでなく誰もが暮らしやすい環境になるだろうな！と思いました。

しかし、如何せん地域社会の在り方も様々で、なかなか何処でも誰でも同じように障害のある人が十分な情報が得られ住みやすい環境で生活しているわけではありません。そこには地域性を理解しながら活かす方法が必要になってきます。そのためには、このような身近な問題を一緒に取り組む環境づくりが不可欠であり、これからも継続して理解し合う関係づくりをすべきだと思いました。



会場内全員でパネルディスカッション

合同シンポジウムを終えて

全国頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

去る3月21日（土）、川村義肢株式会社本社（大阪府大東市）大ホールにおいて、全国頸髄損傷者連絡会と一般社団法人日本リハビリテーション工学協会との共同主催で『第4回合同シンポジウム“一緒にやろうや！「住」”』を開催しました。ユーザーである障がい当事者団体と開発者・研究者・セラピストといった専門家が同じ目線で集まり、議論し合う場として始まった「合同シンポジウム」が4回目の開催を迎え、関西では2009年に開催した「外に出ようや！—様々なバリアを乗り越えて外に出るための工夫—」に続く2回目の開催となりました。

今回の合同シンポジウムは「住まう」をテーマに、様々な分野の専門家が集まり、よりよい住まいづくりのあり方について“一緒に”考えることを目指したのでタイトルを「一緒にやろうや！」としました。現状では、車椅子使用者が快適な生活を送る上で住環境整備は不可欠であるのに、住まいに関する要望、中でも住宅改修には当事者が満足を得るには多くの課題を抱えています。「どこに求めれば要望に応じてもらえるのか？」「どのような住宅が車椅子で住みやすいのか？」我々障がい者は常に“求める先”がないことに困りながら、そしてこの問題を十分に解消できないまま暮らしています。この問題はこれまでも幾度となく議論され、当事者を中心とした「支援体制」「関係機関の連携」「ネットワーク作り」を早急に整備することが必要であることが多くの関係者の間で認識されながらも、一向に有効な解決法が確立できずにいました。当事者や支援者が必要とする情報が十分に行き届いていない現状を打破するために、あらためてこのシンポジウムは重要なものになると捉えていました。

そして実際には、100名を超える「住まう」に関心のある方々が来場されました。頸損者はもとより他の障がい者やリハ工学関係者、建築や街づくり関係者、セラピスト、研究者や学生と様々な

立場の方にご参加いただき、大盛況のシンポジウムとなりました。

シンポジウムでは、住まいづくりに関する話題提供として神戸学院大学の糟谷佐紀さんから、日本の障がい者に対する住宅政策の遅れや障がい者の居住実態についての報告があり、「頸損解体新書2010」のデータから見える重度障がい者が住宅改修する際に生じる情報入手方法の問題や経済的困難により住宅改修ができていない現状が指摘されました。兵庫頸髄損傷者連絡会の米田進一さんからは事例報告として、新築時に相談できる機関がなかったという実態、自身の情報収集不足、設計者との打ち合わせ・コミュニケーション不足であったことにより反省すべき点が多かったことが報告された。NPO法人ケアリフォームシステム研究会の井出誠一さんからは、交通事故による頸髄損傷者に対する住宅改修に携わった事例が報告された。単なる住宅改修にだけ携わるのではなく、「そこまでやるか！」というくらい当事者の視点、家族の視点に立った“人生をリカバーするためのコーディネート”実践を聞くことができ、参加者の関心を大いに引いていました。

またパネルディスカッションでは、糟谷さんがコーディネーターとなり、先の話題提供者2名と兵庫頸髄損傷者連絡会の島本卓さん、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会理事の金井謙介さんが加わって、会場と「住まう」についての意見交換をしました。障がい者本人が、退院後の生活をすぐにイメージするのが困難なために、様々な機関との連携やネットワークを構築できるコーディネーターや中間ユーザーが必要だという意見等、有意義な議論の場となりました。

今回の合同シンポジウムは多業種の参加があっただけに、少なくとも問題を残したままにせず、解決するために連携して動くことが必要だと理解されたと感じます。ご協力いただいた全ての方々に感謝申し上げます。

ぶらぶら物件めぐり

～賃貸マンションの住宅改修～

大阪頸髄損傷者連絡会 赤尾広明

何事もタイミング！

自立生活の実現に向けての準備の過程で、僕はさまざまな物件の間取り図を見ながらいろんな想像をしていました。その後、不動産屋に問い合わせながら空き物件を見て歩くようになりましたが、正直なところ、まだまだ最初からバリアフリーに対応している物件は築浅でなければほとんどないような状況で、何らかの改修工事を施さなければ入居することさえ叶わないという極めて現実的な問題を突きつけられました。結果的に無駄足になったとしても、そこで「もう無理」と諦めるのではなく、自分に合った物件は必ず見つかるかと信じて、折れそうな心を何度も奮い立たせて次々と見て回りました。実際に自分の目で見なければ何も分からなかったからです。たとえば、間取り図を見ただけでは分からなかった事例として、玄関から直角に曲がって廊下から居室につながるという間取り図があって、実際に行ってみると玄関には僕の電動車椅子が 90 度直角方向に曲がれるだけの十分なスペースがなかったことから、僕自身は玄関から先に一步も進むことができなかったのですね。あるいは事前に伝えていた「階段のない 1 階」という重要な条件にかなう物件が見つかったと聞いてワクワクしながら現地に行ってみたら、1 階は 1 階でもそこに行くまでに 5 段くらいの階段がある、いわゆる“中 2 階”というやつだったので、結局その物件を見ることさえできないこともありました。

でも、いくつかの不動産屋に希望の条件を伝えていたことで、その条件に見合う物件の空き情報があればすぐにメール等で間取りを送ってくだ

さるから、それから日程調整して見に行くという作業を繰り返していたら、ある日、僕にとって理想を超える最良物件が飛び込んできました。

ひとめぼれの瞬間（笑）



玄関からベランダまで一直線

玄関に入ってからベランダまで開放感のある間取りは窓を開ければ真っ直ぐに風が吹き抜けるし、床面はほぼ全面フラットなので改修が少なく済みそうなどころも含めて、気に入りました。

ただいま入居中！

- ✓ すべての条件が期待以上！
- ✓ 駅近い！職場近い！
- ✓ 自分が住むイメージをすることで大きく膨らむ期待と楽しみのワクワク！
- ✓ チャンスの神様がもたらすタイミングは絶対に逃さない！

このタイミングを絶対に逃してはなるまい…と、すぐに仲介の不動産屋を通して賃貸契約を結び、マンションの鍵をもらったところで、いよいよ住むための準備を始めることになりました。

物件のオーナー様も障害者の一人暮らしに対して理解がありましたので、通常の要件をキチンとクリアしていればとくに問題なく契約が成立しました。

改修のイメージ

- 具体的ポイント
- 個人的なこだわり

玄関の段差

玄関にはほんの気持ち数センチ程度の段差があったので、手作りの簡易なスロープを設置するだけで問題はありませんでした。

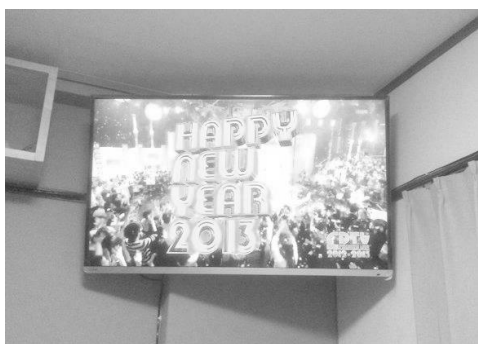
ベランダの段差

僕の日常生活の中ではあまり利用することはなさそうでしたが、ベランダがあまりにも広いスペースがあるので、気候のいい日にテーブルと椅子があればちょっとしたオープンテラスのような感覚でお茶でもタコパでもできそうな感じだったから、段差解消スロープを設置しました。



こだわりのテレビ

これからのわくわく新生活を考えるにあたって、僕にとって最大の楽しみであり、大きなこだわりがあったのはテレビでした。できるだけ大型の液晶で、ベッド上で寝たままで見やすいように、足元の天井近くに壁掛けで設置することでしたが、大工さん(※)による匠の技で実現しました。この位置に設置できたおかげでテレビの下にフリースペースができたし、かなり見やすいと自負しています。



物件探しの条件と上限

家賃：8万円～最大10万円

吹田市内は平均的にどこも家賃が高く、この条件で検索をかけても該当するのはわずか。そんな余裕はないけど、まずは自立を実現させたかったので、見つからなければ仕方がないことから泣く泣く上限を上げてみた。

立地：駅から徒歩10分以内

体力的にも、また、雨天時を考えても最寄り駅からできるだけ近い方が何かと便利。しかしながら、必然的に駅近物件は家賃が高い。徒歩10分圏内という条件もなかなかハードルが高かった。

間取り：1LDK以上

24時間介助が必要となるので、自分の部屋以外に介助者が仮眠できるだけのスペースも必要なことから、間取りは最低でも1LDKから2DKが絶対条件でした。

どこまで妥協できるか？がポイント

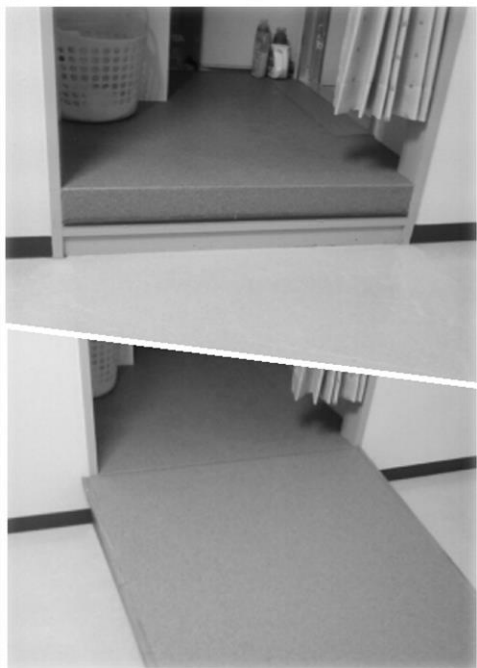
最大の難所

最初に見た瞬間からすぐに「これは何とかしなきゃ…」と思わされたのは浴室の段差でした。高低差が10センチほどあるので、キャスター上げをすれば乗り越えられないことはないけど、入浴するたびに毎回毎回それをするのは大変。しかし、玄関やベランダのように簡易スロープでは対応が難しいのは明らか。そこで、かなり大きめのサイズでスロープを新たに作っていただくことにしました。ただ、設置しっぱなしにしていたら居室に出入りするのに邪魔で通れないので、できるだけコンパクトで、介助者1人でも設置できる重量で、かつ置き場所にそんなに困らないサイズでオーダーしました。ま、実際には予想していたよりも大きかったけど、使わないときはリビングの隅に立てかけておけるので、とても重宝しています。

自分が思い描くイメージと大工さん(※)としてプロの目を見た意見をすり合わせることの重要性を実感しました。それはその後の細やかな改修でも同じことでした。自分が納得するまではトコトン話し合い！

※大工さんとは...

以前から付き合いのあった福祉用具販売会社の職人さんで、今回の住宅改修はすべてその方と意見交換をしながら決めました。



Before and after

上の写真はそのままの状態でかなりの段差があり、下の写真が段差解消スロープを設置したところです。

写真の右側に浴室があるのですが、浴室内との段差はすのこ（取り外し可能）で平坦にして、浴槽はもともと僕は浴槽に入らないからそのままにしてあります。写真

左側にはトイレがあるけど、こちら僕自身が利用することはないのでそのまま何も施していません。

<まとめ>

住宅改修は業者に任せっぱなしにするのではなく、まずはバリアとなりそうなポイントを見ながら、どうすればバリアが解消されるか？具体的に自分でイメージしてみることが大切。

その上で自分が納得できるまで住宅改修業者と意見交換した方がいいように思います。また、頭損の先輩に相談もしくは実際に見せていただくのが失敗リスクの軽減につながるかな。

和室から洋室へ

築 40 年になろうかという古いマンションなので、どうしても当時の主流だった和室ばかり。でも、車椅子で生活するにあたっては畳の間だと汚れやすく掃除も大変だし、すぐに畳が荒れてしまうのは確実。そこで、改修して洋室に変更するつもりでしたが、畳を取り除いて洋室にするとなれば改修費用も高くなるので、畳はそのままにして、その上にウッドカーペットを敷くことにしました。これなら安価で、この先万が一引っ越すことになったとしても元に戻す現状復帰は容易なので、迷うことなく選択しました。



洋室にレイアウト変更したことでわずかな段差が生じたので、簡易スロープを設置。これがなかったとしても十分に乗り越えられるほどの高さですが…。

同様にベランダも当初はスロープではなくオシャレにウッドデッキを取り入れて全面平坦にしようかと思いましたが、予算的にとんでもないことになるので断念しました。



自分がそこに住むイメージを持とう！

会員報告

住宅改修工事について

N・M

住宅を建てて一年半が過ぎました。住宅モデル・一軒家・家族4人・受傷レベル:C6改修工事・住宅建設の参考例の一つとして住宅を建てる時のポイント・物件・業者探し・関わり方について述べたいと思います。

私の場合は一軒家になりましたが色んな改修工事があります。部分改修・玄関直ぐにスロープが欲しいとかトイレの改修・天井走行式リフト・浴室改修などがありますが使いやすく・自分や家族が満足出来る形にしたいです。自分が確固としたイメージがあって良い業者を見つける事が出来れば住宅改修工事の失敗は少ないと思います。



私が住宅を作ったアドバイスや流れを説明します。

(1)最初は分からなくても良いので何となく改修イメージを持とう。

- ・改修工事によって、どの様な効果が得られるか考えましょう。

- ・周りの意見や情報も参考にしつつ自分に合う生活イメージを見つけましょう。

- ・沢山の人の関わってもらい改修アドバイスをもらいましょう。

- ・人任せにしない事。

ただ、イメージは出来ても実際に作ってもらうのは業者です。業者選びも大切に最後の関門にな

ります。成功も失敗も業者次第と言っても過言ではありません。詰りを間違えると絵に書いた餅になってしまいます。そうならない様に慎重に業者を選びましょう。全ての条件を優先したら金額的に難しいかも知れません。折り合わない時などは、柔軟な考えも持ち併せましょう。

中古物件のリモデルも頭に入れておくと良いと思います。

まず、話を聞いてもらう工務店を探すのが最優先課題。どのレベルまでの障害者住宅を作った事があるか？実績や改修を手掛けた住宅を見せて頂くのもいいかもしれません。

実際に改修依頼した人と業者が密な関係で、その後も良い関係でいる業者ならまず間違いは無いと思います。

業者と話を進める上で、事前にネットなどで情報を仕入れておく事も大切です。



「自宅で使用している天井走行式リフトです。」

(2)他にも、改修工事を終えて生活している人や受傷レベルに近い知人などが入れれば実際に見学させてもらうのも成功の近道です。僕の場合は、近くに三戸呂会長が住んでいたのが恥ずかしながら見学させて頂きました。正直とても参考になりました。

実際に触れて見て話を聞いて理解出来るのが

大きな利点です。車椅子で移動が出来る動線の確保・高さ・コンセントの位置・リモコン配置場所・床暖房・全ての場所に意味があります。生活がしやすい様に沢山の工夫がされていました。

リフターを使って入浴もさせて頂きました。ウッドデッキも真似させて頂きました。良い所はどんどん盗んで、分からなければ真似から作る家造りで良いと思います。

私の場合は、三戸呂会長の紹介で幸運にも良い業者を紹介させて頂きました。開催しているバリアフリー展、福祉機器など展示してある所でイメージしてみるのもいいかもです。ありとあらゆる想定をしておいても損は無いです。



「入浴させて頂きました。三戸呂邸にて」

(3) 業者と相談・情報提供・話し合い

よく聞いて理解してもらう事が1番大事です。ボタンの掛け違い行き違いの無い様にする為にも、現在生活スタイルを理解してもらい工事内容・設備機器、何が必要か相談する。

実際に図面を書いてもらいましょう。

自分の描いているイメージが違うなんてザラだと思います。話して見て分からないのは、まだましですが安請け合いで大丈夫とか業者と十分に話して見てボロが出る様なら駄目です。

業者側の意見としてはこう言うのもありました。

プロとして言われた通りではなくそれを越える提案をして隠れたニーズを引き出す。業者が話を聞く姿勢とか自分も色々調べてみて間違いなしと思えば、ほぼ大丈夫です。最終的な決定権・判断はこちらにあります。



「パソコン・住宅模型を使い綿密な打ち合わせ。」

話を十分に聞いて身体の事を理解しようとしている姿勢が感じられるか？

人生プランの設計 / 10年単位の生活スタイルの変化を想定

出来る限りの可能性を考えて1番ベストな形を作ってもらおう。私の場合は、仮契約から本契約までに何回も話し合い住宅図面10枚は書いたと思います。返事には、少し時間がかかりましたがサニープレイスさんに契約して設計をお願いしました。十分に話し合った会話の中で私自身の身体の状態を理解したいと言う業者側の姿勢、話の中で詳しい身体の状態は分かりませんが、満足するまで協力します。と言ってもらえた事や口説き文句もありました。「貴方の夢の実現のお手伝いがしたい！」との熱い気持ちに感銘してしまい、この業者なら失敗してもずっと付き合う事が出来そうと思い決断しました。



「サニープレイス・岡村先生・西崎氏」

相談内容としてはこんな感じでした。

- (1) 予算的・家族構成・家族の生活スタイル
- (2) 車椅子について / 移動手段・スペースの理解

(3) 頸髄損傷について / 身体の状態の理解・今後の生活プラン

(4) 家族構成 / 各々の生活スタイルの理解



「着工開始・更地にしています。」



「上棟式です」

(4) 契約後の流れについて

土地探し・住まいの生活条件・予算・バリアフリー設備導入、更に具体的に条件を話し理解してもらう。環境的条件としては現在のデイサービスを利用出来る場所やヘルパーの事業所も変えたくないことや駅が近いことや通院している病院を変えたくないことなど。

(1) 現在免許が無く妻が免許習得予定です。

歳を取って免許を返し、車が無くても問題ない環境・移動手段の確保。

交通機関・バス停留所・電車駅まで徒歩 10 分。

(2) 現在、通院している病院・ヘルパー・訪問リハビリ・デイサービス環境を変えたくない。身体の状態が分かっていて精神的な負担軽減したい。

(3) 大型スーパー / コンビニ迄・徒歩 10 分
天候の良い時は自走で行きたい。

(4) リハビリを兼ねて / 車椅子の漕げる大きな公園まで 5 分。体力維持・向上の為に環境整備・散歩などリラックス出来る。

条件が当てはまる所を探してもらいました。更に何度も、図面を書いてもらい家族にもベストな一枚を選びました。ボタンの掛け違いが起きない様に何度も何回も打ち合わせします。



「CAD による外観イメージ図面」

(5) 物件が見つかり土地を契約します。

着工中～着工後。バスで通える現場と言う事もあり何度も観に行きました。車椅子で中に侵入できないのが不安で見えない所は図面を見ながら iPad や iPhone で写真や動画を撮ってもらい確認しました。さらに、描いているイメージを伝えたい方法としては iPad で撮った写真に、アプリを使って写真にイメージを書き込んで合成画像など業者に造りたい家をプレゼンしました。



「イメージ通りに出来ています。」

ちなみに、建てれば終わりの関係ではなくその

後の関係も大事だと思います。



「ホームエレベーター設置後二階にて」

ありがたい事に建ててから 1 年半も経ちましたが住みやすい様に、未だに色々お願ひしています。本人だけでなく家族にも大満足の住まいになりました。

最後になりますが住宅改修に 1 番大切な事は、諦めない気持ちと沢山の不満を持つ事が大事だと思います。現在の私は自立訓練センターに通っています。自宅での生活をベースに少しずつですが自分で出来る動作も増えてきました。今後の目標は自宅での自己排便です。

今回は、実際に改修工事などの記事は一切触れていません。なぜなら、個人個人の受傷レベルや環境や条件など違いますので業者の選び方と作業過程についてだけ書いています。料理ではありませんが下拵えが大事です。業者選択肢から工事打ち合わせがしっかり出来れば 8 割は成功しています。これを読んでいる方が納得する住宅が出来れば良いのですから。ここからは各々が満足行く改修工事を行って下さい。

サイトの方に、僕個人の住宅製作過程について詳しく述べています。ブログ名は「今日のドズル」で検索して下さい。興味がある方は住宅日誌で出来て行く過程をブログに書き綴っているのを参考にして頂けたら幸いです。

また、住宅を実際に観たい方は事前に連絡を頂ければ「サニープレイスさんに問い合わせ」してもらい見学に来てもらっても構いません。



「現在の玄関アプローチ。」

外観は南仏～プロヴァンス風～車椅子で出られるウッドデッキもあります。入りロアアプローチはなだらかな傾斜にしています。

障がい者住宅日誌・車椅子で快適に生活するための住宅プロセス家の出来て行く製作過程ストーリーにしています。

場所選定・要望・業者選定・予算資金繰り・悩み・喜びなど書き綴っています。

かなり成功した住宅と自負しています。少し長い日誌になりますが障がい者を持った家族には参考になると思います。

現在、No-1～No-37 迄あります。

住宅日誌 No-1 / 最初からは / こちら

<http://plaza.rakuten.co.jp/dozuru/diary/201409160002/>

住宅日誌カテゴリーNo 別に閲覧は / こちらから

<http://plaza.rakuten.co.jp/dozuru/diary/ctgylist/?ctgy=4>

現在の車椅子生活に実際に使用しています。実際にドズル邸で使用している設備・詳細・使ったの感想・動画など天井リフター・ホームエレベーター・ベッド・空調設備・床暖房・トイレ・浴槽・リビング・ウッドデッキカテゴリー別に見られます。

頸髄損傷住宅設備・生活して便利

バック No. カテゴリー早見表は / こちら

<http://plaza.rakuten.co.jp/dozuru/diary/ctgylist/?ctgy=22>

会員報告

大阪 春のレクリエーション

兵庫頸髄損傷者連絡会 土田浩敬

みまさま、こんにちは。

3月某日、大阪頸損連の毎春のイベントである春のレクリエーション（以下、春レク）に参加させて頂きました。前々回の春レク、淀屋橋界隈の街歩きに参加させて頂いた時は、普段はわざわざ歩いて回らない所を散策し、ボランティアガイドさんから歴史等を聞くことで、新しい発見があり楽しかった事を覚えています。今回は新世界、天王寺動物園、そしてオプション企画で昨年オープンした日本一高いビル、あべのハルカスという盛りだくさんな内容です。

予報どおりの雨

春レク当日、生憎の雨模様...連日天気も良くて暖かな日が続いていたのに、よりによって春レク当日に降らなくてもいいのに～とボヤきながらも、まあ何とかなるでしょう。以前なら雨が降っているだけで、外出するのも嫌になっていたのですが、今ではもうそんな事ありません。何処でも行きますよ～（恐らく）とまあそんなこんなで電車に乗り込み予定通りに御堂筋線の動物園前駅に到着。参加される方はどれくらいだろうか...雨降りだしそれ程いないかもしれない...と考えながら集合場所である5番エレベーター上に着きました。



雨の中かっぱを着て

外はざあざあ降り、やっぱり人は少ないや...と思うと、大阪頸損連事務局長の島本さんが、土田

くん！みんなあっちの屋内にいるからそこで雨宿りしてきなよ！えっみんなってそんなに集まっているんですか？行ってみるとそこには5,6名程集まっています。兵庫組は3人なので合わせると雨にもかかわらず結構な人数です。新世界散策、お昼ごはんの時間も近づいて来たので、みんなカッパを着用して揃って出発します。カッパを持ってきていて良かった～と思うのも束の間、私は頸で電動車椅子を操作するので、頸周りは露出しています。フードは被っているのですが顔は濡れてびちゃびちゃ、顔だけなので拭けばどうってこと無いのですが、それでもこの雨の中をウロウロするのは厳しい...車椅子が入れそうな店を探して一番近くにあった串カツ屋さんに入ることになりました。



串カツ屋さんの中で

雨降りでしたし、車椅子も多かったので、二手に分かれました。車椅子も7台入って席に着きます。みんなそれぞれ注文。新世界で食べる串カツは初めてです。テレビ等で見た事があった新世界の串カツ、一度食べてみたいと以前から思っていました。細かい衣に包まれ、種類は様々でどれもサクサク、中はジューシー。ボリュームもそこそこありますが、意外に何本でも食べられそう。何本か食べた所で、財布とも相談し今回はこれ以上食べるのは止めておきます。 沢山食べて心豊かに、お腹周りも豊かになってしまいそうな、そんな魅惑の串カツを皆さまも是非ご賞味下さい。

想定外の晴れ

お腹も満たされた所で外へ出てみると、雨があがっていました。丁度良いタイミングで止んで良かったです。お店を出て目の前に通天閣があり、周りの雰囲気もいかにも大阪といった感じです。観光客の方達も写真を撮って、美味しい食べ物を食べて、大阪を楽しんでいるのが伺えます。私達もみんなで通天閣の前に並び、記念撮影。大阪にはよく来るのですが、意外と通天閣は初めてで、観光気分を味わう事が出来ました。

記念撮影が済み天王寺動物園へ向かいます。この後の予定では、天王寺動物園なのですが、雨で動物達も屋内退避しているだろうということで、あべのハルカスへ急遽予定変更。確かに雨上がりで少し肌寒いですし、見た感じ動物達の気配も伺えません。一応、正門前で記念撮影を行いここからは行きたい人はハルカスへ行くことになり、とりあえず皆で移動します。天王寺動物園からハルカスまで向かうのですが、徒歩で行くことが出来ます。



天王寺動物園にて記念撮影

向かう途中もよく見えるのですが、全体が淡いグリーンで爽やかな印象。交通の便もよくて皆様も訪れ易いのではないのでしょうか。一旦14階へ上がってエレベーターを乗り換え、展望台行きのエレベーターで最上階にある展望台へ。展望台へ上るにはチケットが必要です。障害者手帳を掲示すれば半額になります。先ほどまで降っていた雨が嘘のようにスッキリ止みました。日差しが雲の間から差し込んで、とても綺麗です。展望台へは島本さんと私が上がります。

初ハルカス

チケットを購入してエレベーターを待ちます。祝日ということもあって展望台へ上る方が多かったのですが、それほど待たずにエレベーターに乗ることが出来ました。高さ300メートルもあつという間に展望台へ。雨が降っていたので、見晴らしはどうか気になっていましたが、それほど心配する必要もありませんでした。少し靄がかかっていますが、それなりに見え、夕方で大阪湾に映り込む木漏れ日は幻想的です。天気が良ければ、京都タワーや明石海峡大橋まで見渡すことが出来るみたいです。そして、とっても高いです。また窓も大きいですし、展望フロアがとても広くて快適です。フロアを一周しながら、あっちには先ほど行った通天閣が見え、はたまた向かうは京セラドームが見えます。その向こうは六甲山系がうっすら見えます。やはり雨上がりで多少ガスがかかって遠くは見えません。足元を見るとまるで車や家がおもちゃのようです。



足下を見るとおもちゃのよう

一通り見て、すぐ下にあるカフェテラスへ。テラスのウッドデッキも広い空間で、皆さんコーヒーを飲んだり、本を読んだり、会話を楽しんだり自由に過ごせます。もちろん見晴らしも良くて、夜は夜景を眺めながらリラックス出来るのではないのでしょうか。

大阪頸損連のイベントはよく参加させて頂くのですが、毎回楽しませてもらいます。兵庫もお手本にさせてもらい、もっと活性化するよう努力していきたいと思います。

会員報告

残念な結果

兵庫頸髄損傷者連絡会 I・A

2014年12月20日、神戸で初めてのアニコンが開催されました。
(アニコンとは、アニメ・ゲームなどが好きな男女の合コンのことです。)

この企画を知るきっかけは、BSアニマックスを見ていて、宣伝していたからです。
テレビでは、東京・名古屋・大阪で開催すると宣伝していました。
調べて見ると、各地であり、神戸でも初めて開催されることを知りました。

募集は11月15日からスタートしていました。
僕が電話をかけたのは、11月25日です。イベント主催者と話をし、自分が呼吸器と電動車椅子を使用し、頸部より下が動かないことを伝え、その上で、参加出来るかを確認しました。

「即答出来ることではなく、会議にかけるので2~3日待って下さい。まだ、会場も決まっておらず、はっきりとお答え出来かねます。」

10日程して電話がありました。

「誠に申し訳ありませんが、今回は参加して頂くことが出来ません。」

候補に挙がっている会場を一件一件、回ってくれたらしいのですが、全ての会場において、電動車椅子での昇降が不可能で、また、呼吸器の事もあり、きちんとサービス提供が出来ないためとのことでした。

今回の会場は、全て2階以上にあり、階段のみか、電動車椅子が入らないサイズのエレベーターしかなかったそうです。

また、会場内に段差が多く存在し、これも断られた理由の1つでした。

呼吸器については、情報不足から来る不安感が、電話口から伝わってきました。

主催者の話では、アニコンに参加すると、アニメやゲーム好きな人が集まるので、共通の話

題で話もしやすく、臆さずに話せるそうです。

また、時間内やテーブルゲームや、軽食もあるそうです。

今回僕は参加出来ませんでした。今後は誰もが参加出来るイベントを、企画して行きたいと言われました。

僕も、誰もが社会参加出来る楽しいイベントを作りたいです。

今回断られた最大の理由は、電動車椅子による移動が出来ないことです。

頸髄損傷者連絡会などで企画したものは、事前に会のメンバーに合わせ、準備されています。

けれど、今回の様な一般の企画は、健常者標準で考えられているので、僕達が参加したいとなると、企画者は、想定外のためなのか、断る確率が高いです。

僕達は、もっと町に出てイベントなどに参加することで、健常者の意識を変えられるのではないのでしょうか。

もっと健常者の中に入って、一緒に楽しんでもいいのではないのでしょうか。

それが、僕達の生活のしやすさ、また、結果的には、健常者の方の生活のしやすさに繋がると、僕は思います。



活動報告

兵庫支部 第5回総会 報告議事録

去る4月18日(土)、快晴の中、西宮市総合福祉センター別館2F多目的ホールにおいて兵庫支部の第5回総会を開催しました。参加者12名のご協力もあり、活動報告、収支報告、活動計画、予算案等の議事を滞りなく進めることができました。その中でも報告すべき議事・議案を掲載いたします。いずれも全員異議なく承認いただいている議事です。これからの兵庫頸髄損傷者連絡会の会活動にご協力いただければ幸いです。

(山本 智章)

－ 2014年度 活動総括－

事務局長 宮野秀樹

会員の体調不良が目立った1年でした。褥瘡に悩まされながらも積極的なセルフヘルプを行ったため患部の悪化を招き、入院を余儀なくされた会員も多かったです。セルフヘルプは自身が健康であることのできる活動です。今一度、セルフマネジメントの原点である自己管理を徹底し、体調維持に努める必要性を強く感じた1年でした。

会員数は停滞状況にあります。関心・興味の持てる行事や情報提供を行って、新規会員を獲得しなければいけません。とはいえ、26名の少数会員の状態ですが、重度障害者の自立を支援するセルフヘルプグループとしての責務は果たせました。

一年を振り返りますと、個々の事業については概ね実施できました。機関誌発行が再開されたことは当会としてもようやく本来の情報発信ができるようになったと安堵しています。機関誌編集に協力してくれる会員も増え、今後の安定した発行体制も確立しつつあります。焦らず定期的な発行を目指して、うまく軌道に乗るように役員会部員メンバー一丸となって取り組みます。

全国総会もホスト支部として成功裡に終わることができました。実行委員の体調不良も目立つ中、手作り感溢れる温かいおもてなしができたと自負しています。大会終了後も若き部員メンバーを中心に、積極的な行事開催を展開し、会の活性化につながってきたように感じます。さらに基盤を固め、息切れしないセルフヘルプの必要性が問われています。

日本リハビリテーション工学協会との合同シンポジウムも大阪支部のメンバーと協力して開催することができました。結果的に100名を超える参加者が来場し、住宅改修というテーマへの関心の高さも知ることができました。兵庫頸髄損傷者連絡会からも2名が事例報告・パネリストとして登壇し、当事者の生の声で問題提起しました。住まい作りは我々が社会参加する意欲を高めるための重要なポイントです。多くの頸髄損傷者のニーズに応えられる情報を提供するためにも、このシンポジウムからさらなる枝葉の勉強会や講習会を開くことが求められるでしょう。

会員個々の活動においては職域、所属団体での活動、また兵庫県主管の事業にも積極的に参加してきました。我々を必要としている人たちの期待を裏切ることなく、今後も皆さんと共に歩める兵庫頸髄損傷者連絡会を目指して様々なことに挑戦して行きたいと思っております。これからも皆さんのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

－ 2014年度 活動報告－

支部活動

2014(平成 26 年)

. 4. 5~6	日本リハビリテーション工学協会・機関誌編集委員会(新横浜)(土田)
. 4. 13	バリアフリー観光調査(南京町)(米田・島本卓・土田)
. 4. 17~19	バリアフリー2014(インテックス大阪)(坂上・宮野)
. 4. 19	兵庫頸損連絡会・支部総会
. 4. 20	大阪頸損連絡会・役員会(CIL あるる)(坂上・土田)
. 4. 20	リハ工学協会関西支部・第3回セミナー(JASPEC・ポートアイランド)(宮野)
. 4. 21	神戸大学医学部保健学科「リハビリテーション工学福祉用具学」講義(宮野)
. 4. 27	大阪支部総会(CIL あるる)(坂上・土田)
. 5. 1	バリアフリー観光調査(北野)(土田)
. 5. 1	関西学院大学・人権教育科目 006「障害と人権」頸髄損傷者と自立生活 講師(坂上)
. 5. 8	関西学院大学・人権教育科目 006「障害と人権」自由に活動できるまちづくり 講師(坂上)
. 5. 11	大阪頸損連絡会・役員会(CIL あるる)(土田)
. 5. 11	バリアフリー観光調査(三宮)(坂上)
. 5. 13	バリアフリー観光調査(三宮)(坂上)
. 5. 20	甲子園短期大学「障害福祉論」講義(宮野)
. 5. 20	バリアフリー観光調査(神戸市役所)(坂上)
. 5. 29	神戸医療福祉専門学校・三田校・OT コース「リハビリテーション概論講義」講義(宮野)
. 6. 7~8	全国頸損連絡会総会・兵庫大会
. 6. 21	しあわせの村事前調査(神戸市)(米田)
. 6. 22	第22回人工呼吸器使用者交流会(西宮市総合福祉センター)(米田)
. 6. 22	大阪頸損連絡会・役員会(CIL あるる)(土田)
. 6. 28~29	日本リハビリテーション工学協会・機関誌編集委員会(新大阪)(土田)
. 7. 3	兵庫頸損連絡会・しあわせの村宿泊体験合宿打ち合せ(島本卓・土田)
. 7. 13	大阪頸損連絡会・役員会(CIL あるる)(土田)
. 7. 19~20	兵庫頸損連絡会・しあわせの村宿泊体験合宿(神戸市)
. 7. 25	第10回神戸リカバリー研究会(神戸市産業振興センター)(宮野)
. 7. 27	大阪頸損連絡会・ピアガーデン交流会(大阪駅前第一ビル)(坂上・土田)
. 8. 23	兵庫頸損連絡会・秋の大バーベキュー~大会打ち合せ(明石)(米田・島本卓・土田)
. 8. 24	頸損者セルフヘルプ面会(大阪)(米田)
. 8. 22~23	日本リハビリテーション工学協会・車いす SIG 講習会講師(広島市)(宮野)
. 8. 25~27	第29回リハビリテーション工学カンファレンス in 広島(呉市)(宮野・土田)
. 8. 31	大阪頸損連絡会・ピアサロン(土田)
. 9. 4	頸損者セルフヘルプ面会(尼崎市)(宮野)
. 9. 7	大阪頸損連絡会・役員会(CIL あるる)(土田)
. 9. 13	秋の代表者会議(東京ビッグサイト)(宮野)
. 9. 13	兵庫頸損連・行事企画打ち合わせ(三田市)
. 9. 21	兵庫頸損連絡会・秋の大バーベキュー~大会(明石市大蔵海岸・バーベキューサイト)
. 10. 1~3	国際福祉機器展(東京ビッグサイト)(宮野・土田)
. 10. 4	兵庫頸損連・忘年会会場探し(神戸市)(米田)
. 10. 4~5	日本リハビリテーション工学協会・機関誌編集委員会(新大阪)(土田)
. 10. 4~5	合同交流会(福島県)(宮野)
. 10. 5	頸損者セルフヘルプ面会(大阪)(米田)
. 10. 5	兵庫頸損連・忘年会会場探し(島本卓)
. 10. 17	第11回神戸リカバリー研究会(神戸市産業振興センター)(宮野)
. 10. 18	兵庫頸損連・忘年会会場探し(三宮・明石)(米田・山本・島本卓)
. 10. 18	神戸学院大学・社会人キャリアアップ講座 講師(宮野)
. 10. 19	大阪頸損連絡会・役員会(CIL あるる)(土田)
. 10. 25	兵庫頸損連絡会・秋の大バーベキュー~大会反省会(NPO 法人ぼしぶる)
. 10. 26	第23回人工呼吸器使用者交流会(宝塚)(米田)
. 11. 8	兵庫頸損連・臨時総会(西宮市若竹会館)

. 11. 9	大阪頸損連絡会・役員会(CIL あるる)(土田)
. 11. 22	大阪頸損連絡会・ピアサポート(星ヶ丘)(土田)
. 11. 29	兵庫頸損連絡会・機関誌「縦横夢人」発送作業(NPO 法人ぼしぶる)(米田・島本卓・山本・土田)
. 11. 30	頸損者セルフヘルプ面会(西宮市)(米田)
. 11. 30	兵庫頸損連絡会・忘年会会場最終打ち合わせ(明石市)(島本卓)
. 12. 6	神戸学院大学・社会人キャリアアップ講座 講師(宮野)
. 12. 13	兵庫頸損連絡会・忘年会(明石市・天府真味)
. 12. 14	大阪頸損連絡会・役員会(CIL あるる)(土田)

2015(平成 27 年)

. 1. 10~11	日本リハビリテーション工学協会・機関誌編集委員会(新横浜)(土田)
. 1. 17	兵庫頸損連絡会・機関誌「縦横夢人」編集会議(NPO 法人ぼしぶる)(米田・島本卓・土田)
. 1. 18	大阪頸損連絡会・新年会(長居)
. 1. 18	頸損者セルフヘルプ面会(大阪)(米田)
. 1. 18	宝塚障害者フォーラム 2015 宝塚市の障害者権利条例制定に向けて～合理的配慮を考える～(宝塚市)(木戸)
. 1. 21	第 12 回神戸リカバリー研究会(神戸市産業振興センター)(宮野)
. 2. 4	B. E. S. T 研修講師(三ノ宮)(土田)
. 2. 7	兵庫頸損連絡会・機関誌「縦横夢人」発送作業(NPO 法人ぼしぶる)(米田・島本卓・山本・土田)
. 2. 8	大阪頸損連絡会・役員会(CIL あるる)(土田)
. 3. 2	兵庫県福祉用具専門部会(兵庫リハ)(宮野)
. 3. 8	映画「風は生きよという」大阪上映会&座談会 人工呼吸器ライフも悪くないよ☆～地域啓発フォーラム～(米田)
. 3. 16	福祉用具フェスティバル 2015(兵庫県立総合リハビリテーションセンター)(宮野)
. 3. 22	大阪頸損連絡会・役員会(CIL あるる)(土田・島本卓)

全国総会・兵庫大会実行委員会

2014. 4. 5	第 14 回 全国総会・兵庫大会実行委員会(神戸市勤労会館)
2014. 4. 12	全国総会・ボランティア講習会(神戸市勤労会館)
2014. 4. 19	第 15 回 全国総会・兵庫大会実行委員会(神戸市勤労会館)
2014. 4. 19	全国大会直前決起集会(ニューミュンヘン神戸大使館)
2014. 4. 26	全国総会・ボランティア講習会(神戸市勤労会館)
2014. 5. 3	第 16 回 全国総会・兵庫大会実行委員会(明石市男女共同参画センター)
2014. 5. 17	第 17 回 全国総会・兵庫大会実行委員会(西宮市中央公民館)
2014. 5. 24	第 18 回 全国総会・兵庫大会実行委員会(明石市男女共同参画センター)
2014. 5. 29	全国総会・講師打ち合わせ(マイドーム大阪)
2014. 5. 31	第 19 回 全国総会・兵庫大会実行委員会(西宮市中央公民館)
2014. 6. 7~8	2014 年度全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会(神戸市勤労会館)
2014. 6. 28	第 20 回 全国総会・兵庫大会実行委員会・反省会&打ち上げ(NPO 法人ぼしぶる)

合同シンポジウム・実行委員会

2014. 12. 21	第 1 回 合同シンポジウム実行委員会(川村義肢株式会社エイドセンター大阪)
2015. 2. 21	第 2 回 合同シンポジウム実行委員会(川村義肢株式会社本社)
2015. 3. 21	全国頸髄損傷者連絡会・日本リハビリテーション工学協会 第 4 回合同シンポジウム(川村義肢株式会社本社大ホール)
2015. 3. 21	合同シンポジウム打ち上げ(香港海鮮飲茶樓 住道オペラパーク店)

原稿執筆活動

全国機関誌	・頸損「No. 113『兵庫大会を終えて』(土田)、『私たちの“神戸”バリアフリーチェック』(米田、土田、島本卓、中地)
兵庫支部機関誌	・縦横夢人 冬 6 号 『秋の大バーベキュー大会』(中川淳子、島本卓、山本)、『第 41 回国際福祉機器展 H. C. R2014 報告』(土田)、『人工呼吸器使用者情報交換から見えてきたこと』(米田)、『頸損チンコンひとり股旅』(宮野) ・縦横夢人 新春 7 号 『忘年会』(山本、島本卓)、『初詣』(土田)、『初めての沖縄』(米田、土田)
大阪支部機関誌	・頸損だより No. 132『プレス to ボイス第 19 回』(米田)、『カラオケ大会』(土田)

－ 2015年度 新役員体制－

○役員体制

- ・会 長 三戸呂 克美 (再任)
- ・事務局長 宮野 秀樹 (再任)
- ・編集部長 土田 浩敬 (再任)
- ・会 計 布上 真奈美 (再任)
- ・企画担当 米田 進一 (再任)
- ・会計監査 坂上 正司 (再任)
- ・会計監査代理 木戸 功 (新任)

－ 2015年度 新役員会部員メンバー－

○新役員会部員メンバー

- ・会 長-----三戸呂
- ・事務局長-----宮野
- ・編集部長-----土田
- 部員-----木戸 (ホームページ担当)
- 部員-----山本智 (機関誌担当)
- ・会 計-----布上
- ・会計監査-----坂上
- ・会計監査代理-----木戸
- ・企画担当-----米田
- 部員-----島本卓

○各部局の主な仕事

- ・会長-----兵庫頸損会総括
- ・事務局-----役員会取りまとめ、名簿管理、タック印刷、お知らせ等発送作業、行事会場手配、行事保険加入、物品管理
- ・編集部-----機関誌編集、HP運用、メール管理
- ・会計-----入出金管理 (会費、カンパ、支払など)
- ・会計監査-----会計監査
- ・会計監査代理-----会計監査の代理
- ・企画担当-----行事の企画、行事会場調査、ボランティア募集

－ 2015年度 事業計画－

○活動方針

- ・頸損連絡会としての役割を検証し、会員および頸損者が求めるニーズに応えられる体制作りを継続して目指す。
- ・自立を望む頸損者に支援を行う体制作り。
- ・地域に密着した交流イベントの開催。
- ・医療機関、福祉用具・機器メーカーとの連携による地域生活情報の共有化。
- ・行政への提言、会員および頸損者の交渉支援。

○全体行事

内 容

- ・ 4 / 18 (土) 兵庫支部総会 西宮市総合福祉センター
- ・ 5 / 30 - 31 (土・日) 全国・全国頸髄損傷者連絡会総会・東京大会 (東京)
- ・ 6 / 20 - 21 (土・日) 兵庫・しあわせの村宿泊体験合宿 (神戸)
- ・ 9 / 20 (日) 兵庫・バーベキュー大会 (明石市大蔵海岸)
- ・ 11 / 8 (日) 兵庫・定例会
- ・ 12 / 12 (土) 兵庫・忘年会

○機関誌「縦横夢人」発行

- ・ 5 / 11 No.008
- ・ 8 / 24 No.009
- ・ 11 / 24 No.010
- ・ 2 / 15 No.011

○行事以外の活動

- ・ 個々のセルフヘルプ活動
- ・ 西播磨総合リハビリテーションセンター定例協議会
- ・ 兵庫県立総合リハビリテーションセンター福祉用具専門部会委員会 (三戸呂)
- ・ 講師依頼対応
- ・ 行政交渉支援

<参考行事>

○その他外部行事

内 容

- ・ 4 / 16 - 18 (木・金・土) バリアフリー2015総合福祉展 (インテックス大阪)
- ・ 5 / 30 - 31 (土・日) 第31回DPI日本会議全国集会 in 福島 (郡山市)
- ・ 6 / 24 - 26 (水・木・金) JIL 総会 (仙台市)
- ・ 8 / 7 - 9 (金・土・日) 日本福祉のまちづくり学会第16回全国大会 (東京・柏大会)
- ・ 10 / 7 - 9 (水・木・金) 第42回HCR国際福祉機器展 (東京ビッグサイト有明)
- ・ 11 / 13 - 15 (金・土・日) 第30回リハ工学カンファレンス (沖縄)



昨年度の支部総会集合写真

<行事のお知らせ>

日 時	内 容
5/30・31 (土・日)	全国頸髄損傷者連絡会総会 東京大会
6/20・21 (土・日)	しあわせの村宿泊体験合宿
9/27 (日)	秋のバーベキュー大会(大蔵海岸BBQサイト)
10/1～3 (木～土)	リハビリテーションケア合同研究大会 神戸 2015
11/13～15 (金～土)	第30回リハ工学カンファレンス in おきなわ
開催時期 未定	頸損祭

全国頸髄損傷者連絡会 全国総会 2015年 東京大会のご案内

大会ホームページ URL <http://tokyogeneralmeetings.web.fc2.com/>

■日 時：2015年5月30日(土曜)・31日(日曜)

■会 場：ホテルサンルート有明

(ワークショップ・機器展示・レセプション・総会・宿泊)

〒135-0063 東京都江東区有明 3-6-6

TEL 03-5530-3610 FAX 03-5530-3611

URL <http://www.sunroutehotel.jp/ariake/>

■スケジュール：

○5月30日(土曜日)

13:00 受付開始 (ホテル2F)

13:15 大会開始 開催挨拶 ワorkshop開始

15:00 ワorkshop終了 休憩

15:15 全国頸髄損傷者連絡会 全国総会 開始(ホテル2F)

17:00 全国頸髄損傷者連絡会 全国総会 終了

17:45 レセプション受付開始(ホテル2F、全国総会 同会場)

18:00 レセプション開始、挨拶、

20:30 レセプション終了、閉会挨拶、事務連絡

○5月31日(日曜日)

10:00 女性頸髄損傷者交流会(ホテル内・女性のみ自由参加)

12:00 交流会終了 全日程終了 観光や東京散策にお出かけください。

※会員のみなさまへのお願い

お手元に届いた「全国総会・東京大会」案内封筒の中に出欠はがきが同封されています。総会成立に必要な委任状でもありますので、欠席される方も委任状に記載して郵送ください。ご協力のほどよろしくお願いたします。

BBQ&宿泊体験・しあわせの村合宿！

兵庫頸損連絡会では、宿泊体験企画として「しあわせの村合宿」を計画しています。今年も神戸しあわせの村で BBQ&宿泊体験を行います。宿泊経験のない・少ない方、この機会に自信をつけちゃいましょう！サポート体制も万全ですので安心してください。夜の交流会でも盛り上がり、夏の熱い思い出を作りませんか？

■日時：2015年6月20・21日（土・日） BBQは15:00～17:00 宿泊は翌10:00頃まで
※本館1Fロビーに出来るだけ14:30迄にお集まり下さい。

■場所：神戸しあわせの村本館 〒651-1102 神戸市北区山田町下谷上字中一里山14-1
TEL:078-743-8000 <http://www.shiawasenomura.org/>

■宿泊費：1名3500円（介助者含み定員15名に達次第、受付終了致します。）（介助者も同額です。）

※障がい者手帳を必ずご持参ください。※BBQ、交流会代は別途徴収します。

※雨天時には屋内にて交流会になります。

☆会場までのアクセスは自家用車かバス利用になります。

☆相談にも応じます。参加される方は必ずご連絡ください。

秋のバーベキュー大会

毎年恒例の大バーベキュー大会！兵庫県が誇る世界一長い吊り橋「明石海峡大橋」を眺めながら、潮の香りが漂う中で、お腹も心も癒しませんか？普段、なかなか会えない仲間や、バーベキュー大会で新たに知り合った同志と共に、今秋一番楽しい思い出を、皆さんと一緒に作り盛り上がりましょう！

■日時：2015年9月27日（日）

■場所：大蔵海岸バーベキューサイト「ブリッジテラス 大蔵」（予定）

※詳細が決まり次第、機関誌およびホームページでお知らせします。

第30回リハ工学カンファレンス in おきなわ 演題募集開始！

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会が主催するリハ工学カンファレンスでは、障害のある方のリハビリテーションを支援する機器や技術について、リハビリテーションに関係するさまざまな分野の参加者が互いに理解できる言葉で納得できるまで討論することを目的として、毎年1回開催されています。障害のある方、工学・医学・福祉・教育・行政などの関係分野の方だけでなく、「リハビリテーションのための工学技術の応用」に興味をお持ちの方は、ぜひご参加ください。

演題募集が始まっています。

登録期間：2015年4月30日から7月30日（木）まで

<http://www.resja.or.jp/conf-30/>

★当事者発表枠があります！

「初めてリハ工学カンファレンスにて演題発表する障害当事者」および、「初めてリハ工学カンファレンスにて演題発表する障害当事者の家族」については、日本リハビリテーション工学協会の会員・非会員を問いません。「こんな道具や機器を使っているのを知ってほしい」「こんな工夫をしているのを知ってほしい」「こんな道具や機器を作ってほしい」といった私たちの実際の生活や思いや必要としているものを、リハ工学研究者や開発者に伝えるチャンスです。我々が本当に必要とする道具や

技術を開発させるために、研究者や開発者と障害当事者で一緒に考えましょう！

兵庫頸髄損傷者連絡会 入会案内

兵庫頸髄損傷者連絡会は、兵庫県及びその近郊に在住する頸髄損傷者（以下、「頸損者」と略す）及びそれに準ずる肢体不自由者の生活を明るく豊かなものにするために、日常的な、しかし最も基本的な「介助」や「移動手段の確保」といった問題を出発点として、重度身障者がこの社会の中で、いかにすれば自立性を失わない、真に人間的な生活を送れるかについて、会員及びそれを取りまく人々と共に考え、実現することを目的とし達成する為に次の事業をおこなっています。

(1) 頸損者の生活条件整備のための広範な活動

- ・自治体などの要望活動
- ・街づくりや公共交通機関などの調査
- ・生活関連情報の収集研究
- ・宿泊訓練
- ・その他学習会や交流会

(2) 機関誌の発行、必要文献の提供

- ・「頸損だより」「事務局通信」の発行
- ・ビデオや文献の貸し出し、配布

(3) 交流を深めるための集い、レクリエーション

- ・街に出よう
- ・運動会
- ・忘年会
- ・その他、見学会、交流会

本会の会員は

- ・兵庫県に在住、または県外在住でも入会をされた頸損者（正会員）
 - ・会の活動を手伝ってくださる方々（協力会員、ボランティア）
 - ・それ以外の地域在住で機関誌の購読を希望する方々（購読会員）
- などで構成されています。また、本会正会員になることで自動的に全国頸髄損傷者連絡会（本部：東京）の会員になります。

※入会、協力、購読を希望の方は、下記事務局までお問い合わせください。

入会申込書を FAX か郵送いたします。ホームページからの入会も可能です。

★カンパも受け付けています★ 兵庫頸髄損傷者連絡会の活動に是非ご協力ください。

振込先

郵便振替口座：00990—8—265974

口座振込名義：「兵庫頸髄損傷者連絡会」

ゆうちょ銀行 ○九九店 当座預金 口座番号0265974

振込名義：ヒョウゴケイズイソンシヨウシヤレンラクカイ

三菱東京UFJ銀行 明石支店 普通預金 口座番号4787703

振込名義：兵庫頸髄損傷者連絡会 会長 三戸呂克美

兵庫頸髄損傷者連絡会 事務局（臨時窓口）

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B

特定非営利活動法人ぼしぶる内

TEL 079-553-6400 FAX 079-553-6401

E-mail : hkeison@yahoo.co.jp HP : <http://hkeison.net/>

頸髄損傷って何？

人間の身体には、首から腰の辺りにかけて背骨といわれる太い骨があります。その背骨の中には「脊髄(せきずい)」と呼ばれる太い神経の束が通っていて、この脊髄は手や足を動かして運動したり、「暑い・寒い」や「痛い」などを感じたりする神経などがたくさん集まっており、すべて脳につながっています。この神経はとても大事なもので、1本でも切れたりすると手が動かなくなったり、足が動かなくなったりします。中でも脳に最も近い部分の神経のことを「頸髄(けいずい)」と呼び、その神経を損傷してしまうことを「頸髄損傷」と呼びます。その頸髄神経が切れてしまうと人間の体は大変なことになります。体が動かないことに加えて、温度を感じることができなくなり「暑い」「寒い」がわからなくなって「体温調節」をすることができなくなります。汗もかかなくなり、体の中に熱がこもります。痛みなども感じなくなるので、ジッとしていると体の一部が圧迫され、その部分に「褥創(じょくそう)」と呼ばれる、皮膚や肉が死んで穴が空く状態になり、放っておくと死に至る可能性もあります。

そして、頸髄損傷には損傷を受けた部位によって「やれること」「動く部分」の範囲が変わってくるという特長があります。首から下が動かない人もいれば、車椅子を自分でこぐことができる人もいます。自動車を運転できる人までいるんです。頸髄損傷といってもその症状は千差万別で、“全く同じ状態の人”を探すのは困難なのです。

もし今後、頸髄損傷の人の介助をすることがあったなら、まずその人に身体の状態を聞いてみてから、適切な介助を心懸けることが望めます。まずは聞くことが第一です。大抵の人は身体の状態を教えてくださいと思いますよ。

～編集後記～

今回の縦横夢人は、日本リハビリテーション工学協会と全国頸髄損傷者連絡会との合同シンポジウム“一緒にやろうや！「住」”が特集となっています。私たち車椅子ユーザーが快適な生活を送る上で必要となる住環境整備に関する様々な問題点を専門家（当事者、建築、まちづくり、リハ）が集まり、具体的事例を交えながら意見交換を行い、より良い住まいづくりのあり方について一緒に考えました。その場で発表された方々の体験談や、他にも住宅改修を行われた方や物件探しで困ったことなども書いていただきました。これからも、情報発信として縦横夢人が皆さまに読んで頂けるよう頑張りたいと思います。 (T. Y)

個人情報保護についての当会の方針

当会では、会員の皆様の個人情報の取り扱いにあたりましては、個人情報が個人の人格尊重の理念の下に慎重に取り扱われるべきものであることに鑑み、権利利益を保護するために、最善の配慮を行っております。

『縦横夢人』2015 春号 (NO.08)

2015.5.11.

編集者：兵庫頸髄損傷者連絡会

編集責任者：兵庫頸髄損傷者連絡会 編集部長 土田浩敬

本部：〒674-0068 明石市大久保町ゆりのき通 2 丁目 3-5-1-205(三戸呂方)

TEL&FAX：078-934-6450

臨時 窓口：〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 1 丁目 1 番地の 1

フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ほしびる内

TEL：079-553-6400 FAX：079-553-6401